

東海運動器フォーラムの御案内

謹啓 時下、先生方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび東海運動器フォーラムを下記の如く開催する運びとなりました。
誠に忙しいこととは存じますが、是非ともご参会賜われますようご案内申し上げます。

謹白

当番世話人：三重大学大学院医学系研究科
運動器外科学・腫瘍集学治療学
教授 須藤 啓広 先生

記

日 時：令和3年2月27日(土)16:15～

実施形態：Web 講習会 (Zoom ミーティングによるオンライン配信)

※ 接続先 URL、事前登録方法は裏面をご確認ください

【 学術情報 】 16:15～16:30

「テリボン 最近の話題」

旭化成ファーマ株式会社

【 特別講演 I 】 16:30～17:30

座長 藤田医科大学医学部 整形外科学講座
教授 藤田 順之 先生

『 骨代謝の恒常性破綻機構の理解とその制御 』

熊本大学大学院生命科学研究部 整形外科学分野
教授 宮本 健史 先生

≪ 休憩 17:30～17:45 ≫

【 特別講演 II 】 17:45～18:45

座長 三重大学大学院医学系研究科
運動器外科学・腫瘍集学治療学
教授 須藤 啓広 先生

『 医療安全 -見果てぬ夢- 』

学校法人慈恵大学 理事
東京慈恵会医科大学 特命教授
丸毛 啓史 先生

* 下記の研修単位を取得できます。 ※ ご注意:いずれの単位も開始から終了までのご視聴(接続)が必要です。ご自身の「ビデオ(カメラ)をオン」にして顔が確認できる状態でご視聴ください。また、ご視聴の際は必ず、「マイクをミュート(オフ)」にしてご視聴下さい。

・日本医師会生涯教育講座認定単位 合計 2 単位

単位取得のご注意：講演最後の『アンケート』に WEB にてご回答いただく必要があります。

特別講演 I : [77] 骨粗鬆症 (1 単位) 特別講演 II : [7] 医療の質と安全 (1 単位)

・日本整形外科学会研修会認定単位 認定番号(20 - 1798)

特別講演 I : 専門医資格継続単位 1 単位 [1] 整形外科基礎科学・[4] 代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)

特別講演 II : 専門医資格継続単位 1 単位 [2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)・[12] 膝・足関節・足疾患

共催：東海運動器フォーラム／旭化成ファーマ株式会社

◆ご参加方法◆

本講演会は、Zoom®ミーティングを用いたオンラインセミナーです。

【登録方法】

下記 URL をご入力後、登録ページにアクセスし、必要事項をご入力ください。

また、右記の『二次元コード(QRコード)』からもアクセス頂けます。

※ ご登録頂きました個人情報個人情報は個人情報保護法を遵守し、講演会に関する

ご連絡、学会への研修単位申請、及び当社からの情報提供に利用させていただきます。

※ 講演内容及びスライドの撮影、スクリーンショット、録画、録音等はお控え頂きますようお願いいたします。



<https://asahi-kasei.zoom.us/meeting/register/tJYufuGtqjMsGNMsvy4F5RzOeQRNyO-zz9zY>

【お問い合わせ先】

旭化成ファーマ株式会社 榊 哲生(ます てつお)

電話:080-3275-2305 メール:masu.tb@om.asahi-kasei.co.jp

また、右記の二次元コード(QRコード)を読み取り頂ければ、メールが起動します。



【特別講演 I】

「骨代謝の恒常性破綻機構の理解とその制御」

熊本大学大学院生命科学研究部 整形外科学分野 教授 宮本 健史 先生

骨粗鬆症は加齢や閉経など、様々な要因で発症する多因子疾患である。いずれのリスクについても、最終的には骨の脆弱性に至るわけであるが、そのメカニズムを理解することは、病態にあった治療法を検討し実施する上で、極めて重要である。しかし、骨粗鬆症が高齢者において、ごく一般的に見かける疾患であり、また多くの薬剤が治療薬として臨床の現場で使われているにも関わらず、意外にもその疾患発症のメカニズムについてはあまり検討されてこなかった。

我々は、骨吸収を担う生体唯一の細胞である破骨細胞の分化機構の解析や、閉経後骨粗鬆症の発症機構の解明、生活習慣因子や遺伝的要因などの様々な角度から、骨代謝の恒常性破綻につながるメカニズムの解明を進めてきた。これらの知見は、病態にあった最適な治療法を検討する上で、重要な情報をもたらすと考えている。

本講では、我々がこれまでに取り組んできた骨に関する基礎及び臨床研究の一端を紹介させていただき、治療法やその対応等について考察したい。

【特別講演 II】

医療安全 -見果てぬ夢-

学校法人慈恵大学 理事 東京慈恵会医科大学 特命教授 丸毛 啓史 先生

医療機関や医療者にとって、医療安全・感染対策の徹底が最優先課題であることは論を俟たない。そうした中で、米国 Johns Hopkins 医科大学の Makary 教授のグループは、2016 年の British Medical Journal に米国における死因の約 10%(251,000 件)が“medical error”であり、がん、心疾患に次ぐ第3位であったことを報告している。驚くべき数字である。

私どもの大学附属病院でも、2002 年に旧青戸病院において、腹腔鏡下手術で患者さんが死亡し、3人の医師が逮捕され有罪判決が確定した医療過誤事件を経験している。本件以降、当施設では、医学部教育を含めて、医療安全に対して絶え間のない取り組みを行っている。しかし、医療の進歩と共に医療技術や医療器機の高度化、医療行為の複雑化が進行する中で、様々な医療問題事例が発生していることは事実である。

こうした現況を踏まえ、講演では、最近の医療問題事例について概説し、その対策と医療事故の当事者にならないための方策について私見を述べる。